

# 梅雨入り前 県民の森







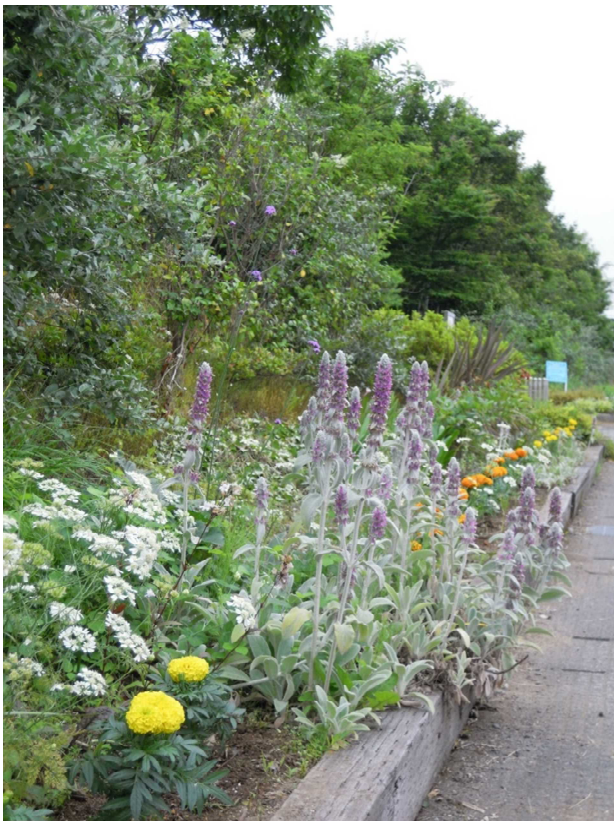












三木高枝宗氏の森

## バタフライガーデン

**バタフライガーデンとは？**

バタフライガーデンはチョウを呼びよせる庭のこと。イギリスで発生した身近な自然を楽しむガーデンングの一つ。チョウは変態する昆虫なので、多くが幼虫時代は植物を食べ、羽化してチョウになった成虫は花の蜜や樹液などを餌にします。この森では、チョウを呼ぶために幼虫の食草（草と木）と成虫が餌にする蜜の多い花や樹液を出す木などを選んで植え、植物の四季の移ろいと、チョウが舞う光景や母線の産卵・幼虫の脱皮・蛹化・羽化などを観察する場をつくりました。

**市街地で地域の自然とふれあう**

県民の森の背後に、五十嵐川、進心坂や大崎山などの里山があります。それぞれの環境にさまざまなチョウや生き物が棲んでいます。県民の森では、地域のチョウを呼び込み、バタやアゲハなども含め、人工の森に「人と自然がふれ合う生物はたしかな」をつくり出す試みをしています。

  
モナルタで産卵するアゲハ（真田・ノ）

**バタフライガーデンの今とこれから**

2017年現在、県民の森で30種を超えるチョウを記録しています。この森は樹林や草地、ボーダー花壇にもアゴの餌になる食草や蜜源になる植物があります。森の成長に合わせて、現在は草地やボーダーにもこのチョウが見られます。これからは、チョウの餌になる植物を増やし、より多くの種類のチョウを呼び寄せたいと考えています。

**三条市「県民の森」づくり代表者会議**  
2017年9月、公益財団法人内田エネルギー・科学振興財団の助成事業で設置しました。



